

西宮版総合戦略の取組み状況（平成 27 年度）

平成 28 年 12 月

西宮市 政策局

目次

1. 西宮版人口ビジョン・総合戦略【概要】.....	P1
2. 人口の状況	P3
(1) 総人口の推移.....	P3
(2) 人口動態の状況.....	P4
3. 西宮版総合戦略 平成 27 年度進捗状況.....	P5
(1) 平成 27 年度の状況について.....	P5
基本目標(1) 稼ぐ力を引き出し市民の暮らしを支える産業支援.....	P5
基本目標(2) 大学との連携強化	P7
基本目標(3) 都市ブランドの発信強化	P9
基本目標(4) 芸術文化・スポーツに触れる機会の促進.....	P10
基本目標(5) 結婚・出産・子育て・子供の育ちへの支援.....	P12
基本目標(6) 高齢者・障害のある人の暮らしへの支援	P16
基本目標(7) 地域特性を踏まえた取組み.....	P19
(2) 平成 27 年度実施の地方創生先行型交付事業について.....	P22
4. 地域創生総合戦略検証に係る有識者会議.....	P25

1. 西宮版人口ビジョン・総合戦略【概要】

【策定趣旨】

- ・急速に進展する少子高齢化への対応や人口の東京一極集中の是正等のため、各自治体で人口減少克服・地域創生のために地方版総合戦略の策定が行われています。
- ・西宮市でも、人口の現状を把握・分析するとともに、文教住宅都市としての魅力を生かし、「西宮らしい暮らし」を楽しむまちを基本コンセプトとした「西宮版人口ビジョン・総合戦略」を策定しました。

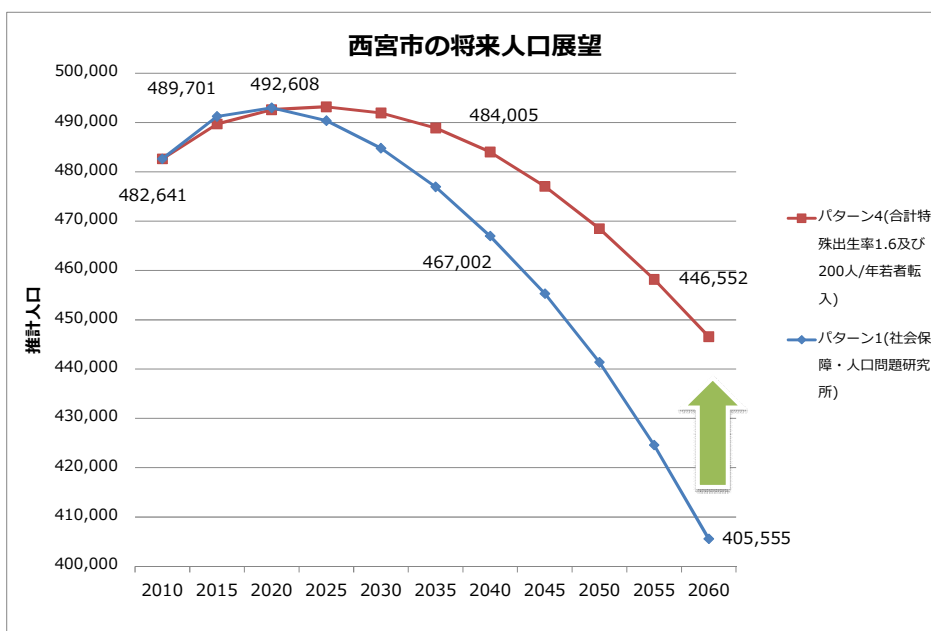
【人口の将来展望】

- ・西宮版人口ビジョンにおいて、社会動態、自然動態からいくつかのパターンを推計し、本市としてはパターン4を目指すこととした。

(パターン1) 国立社会保障・人口問題研究所の標準的な推計手法で、全国的に人口が減少するため人の移動が半減すると仮定したもの

(パターン4) 合計特殊出生率を1.6と仮定し、若い世代25～34歳の夫婦のみ世帯が200人/年(100世帯/年)転入すると仮定した場合

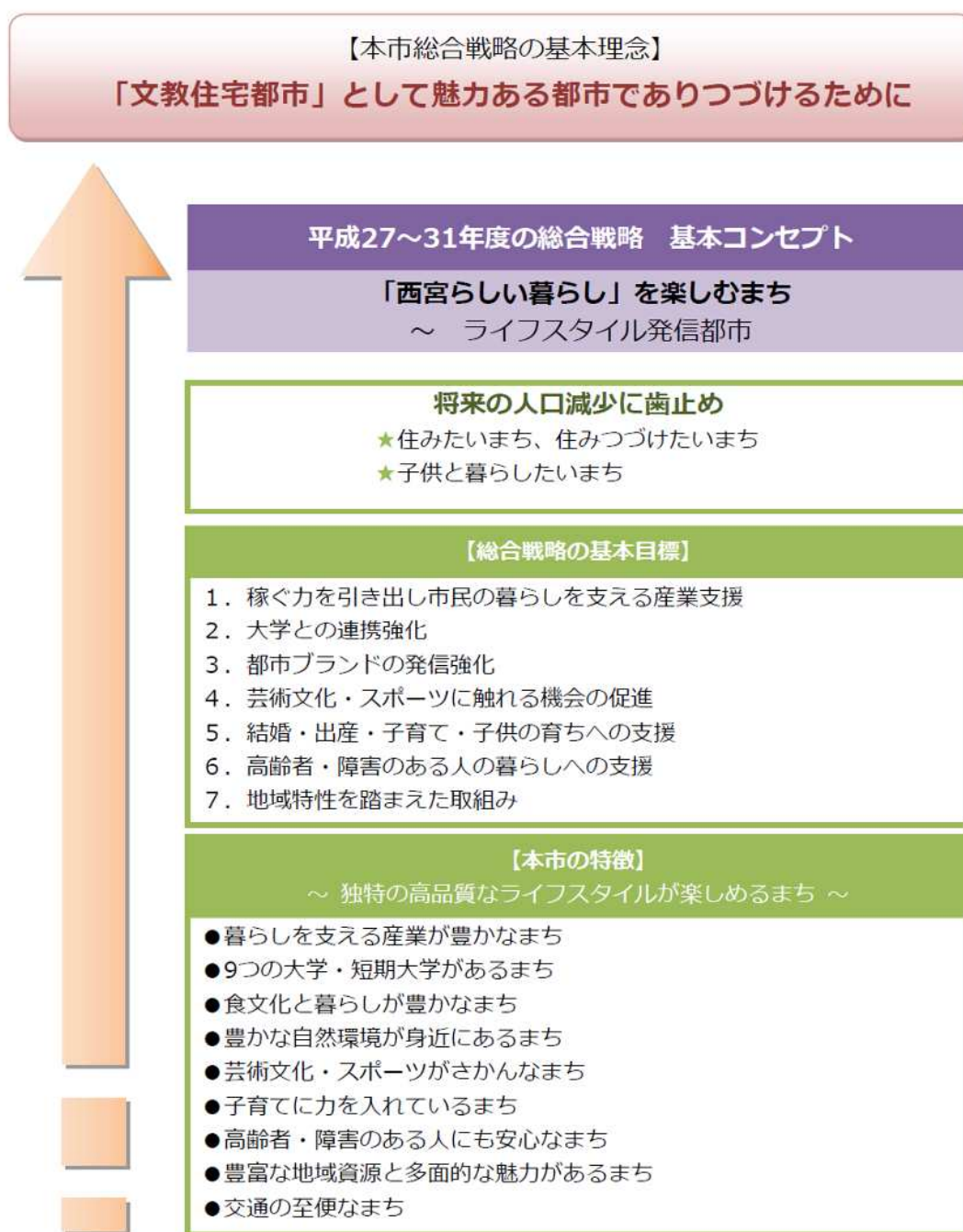
図-1 将来人口展望



【本市の政策目標】

・“「文教住宅都市」として魅力ある都市でありつづけるために”を本市の総合戦略の基本理念として必要な対策を講じていくこととします。

・地域創生の取組みにあたっては、「独特の高品質なライフスタイルが楽しめるまち」という本市の特徴を活かし、“「西宮らしい暮らし」を楽しむまち～ライフスタイル発信都市”を、平成 27～31 年度の総合戦略の基本コンセプトとして取組みを展開します。



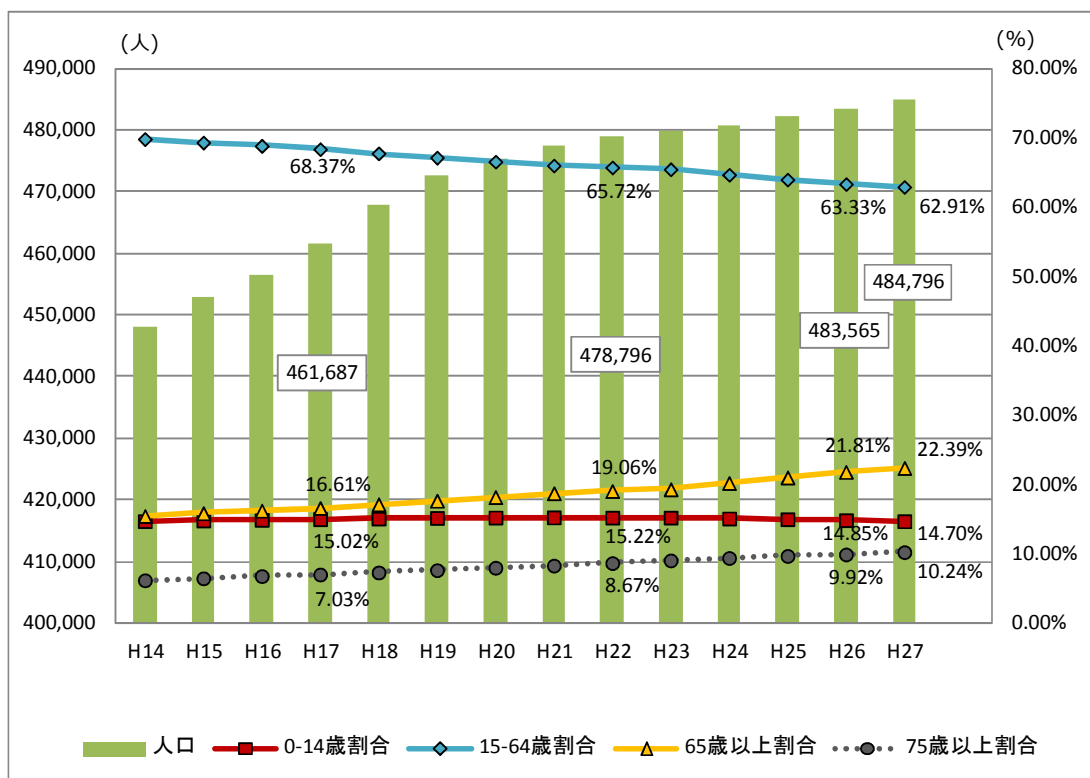
2. 人口の状況

(1) 総人口の推移

・平成 27 年度 9 月末現在の人口は **484,796 人** (平成 26 年度より **1,231 人の増加**)

- ・15-64 歳割合は年々減少しており、平成 27 年度も同様に減少 (▲0.42 ポイント)
- ・65 歳以上割合は 22.39%、平成 26 年度から 0.58 ポイント増加
- ・**0-14 歳割合は平成 26 年度に 15%を下回り、平成 27 年度も減少 (▲0.15 ポイント)**
- ・**75 歳以上割合は 10%を超え、平成 26 年度から 0.31 ポイント増加**

図-2 総人口の推移



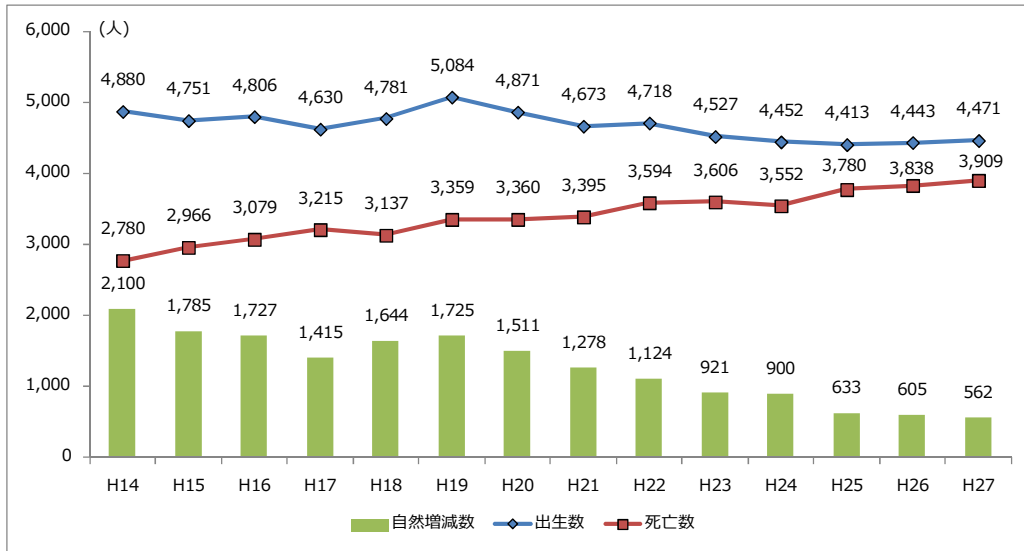
データ：平成 14 年～27 年_9 月末時点_西宮市住民基本台帳人口

(2) 人口動態の状況

① 自然動態

- ・平成 27 年の出生数は 4,471 人で、出生数はここ数年増加傾向にある
- ・一方で死亡数も増加していることから、自然増減数としては 562 人となっており年々減少傾向にある。

図－3 西宮市における出生・死亡数の推移

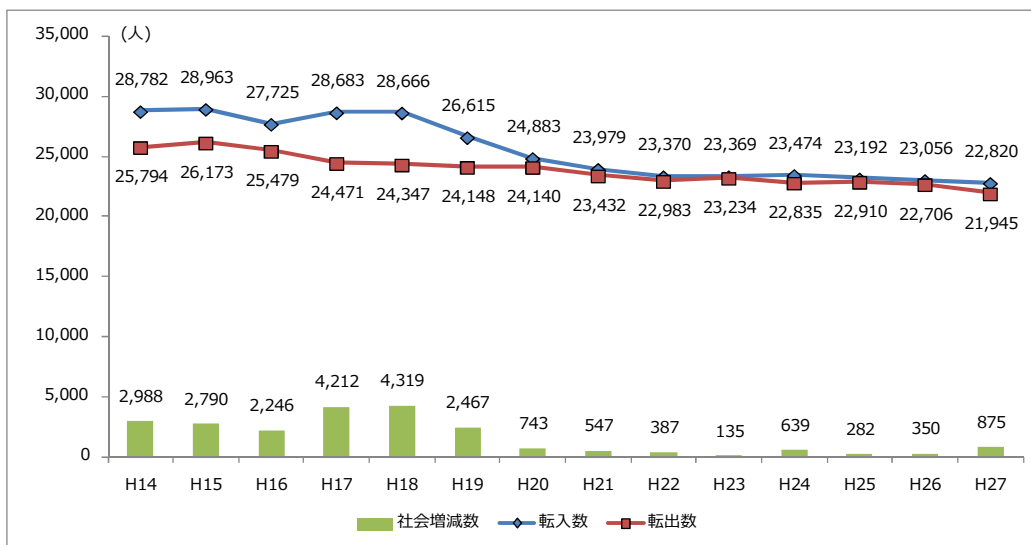


データ：平成 14 年～27 年_西宮市住民基本台帳人口

② 社会動態

- ・平成 27 年の転入数は、22,820 人となっており、平成 26 年より▲236 人。
- ・転出数も減少しているため、社会増減数は 875 人で、平成 26 年度より 525 人増加している。

図－4 西宮市の転出・転入数の推移（市内間転出入を除く）



出典：西宮市統計書

3. 西宮版総合戦略 平成 27 年度進捗状況

(1) 平成 27 年度の状況について

基本目標(1) 稼ぐ力を引き出し市民の暮らしを支える産業支援

【施策内容の概要】

- ・地域経済の活性化と雇用確保の観点から、競争優位性の高い飲食料品関連産業を中心とする分野における本市産業の競争力強化に取り組みます。
- ・市内で生産された商品やサービスが、消費意識の高い市民等により一層、購買・消費されることで、さらに質の高い商品やサービスの創出、市民のライフスタイルの質の向上につながる、正の経済循環（サイクル）が形成されることを目指します。
- ・企業の社会貢献活動を通じて、本市の地域課題や政策課題に共に取り組む「企業市民」を増やし、持続可能なまちづくりに繋げていきます。

【数値目標】

- ・GDPをはじめとする数値は今後の公表予定
- ・目標達成については今後の動向を見守る必要がある（経済環境の状況により影響を受ける）

指標（単位）	基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
1 市内総生産（GDP）	1兆4,836億円 (H25)	—	1兆5,402億円
2 市内1事業所当たり製造品 出荷額等	1,545百万円 (H25)	—	2,000百万円
3 市内従業者数	147,324人 (H24)	—	160,000人

「1」：平成 29 年 2 月頃に公表される予定

「2」及び「3」：平成 28 年 6 月の経済センサス活動調査においてとりまとめられる

【目標達成に向けた取組み内容（平成 27 年度の状況）】

①魅力ある企業へのワンストップ相談の充実	●「経済分析システム・RE S A S」により地域経済を支える製造業や物流業などの企業情報の把握に努めた。
	●企業立地サポート事業において市内企業の訪問を行い、ニーズ把握に努めた。また、必要に応じて支援制度や支援機関等の紹介を行った。
②企業立地・定着の促進	●これまでの企業立地活動により、平成 27 年度には名塩国見台の産業団地に 4 企業の進出が決まった。
	●平成 28 年 3 月議会において企業立地促進条例の改正を行うことで市外企業が本社機能を市内に移転した場合の優遇制度を創設した。

③産学官連携の推進	●市内企業のニーズと大学を市がつなぐことで、新製品開発等の支援を行った（2件）
④起業・創業支援による すそ野拡大	●創業支援事業計画に基づき、商工会議所による窓口指導や巡回指導、過去のスクール参加者へのフォロー等が実施された。
	●創業支援事業計画に基づくセミナーやスクールを実施したほか、さらなるすそ野拡大のための催しとして起業応援フェアを開催した。
⑤西宮ブランド（産品）の 構築	—
⑥市内産品の販路拡大	●市内商業施設（2店舗）において、日本酒等の市内企業の製品や市内農産物の常設販売コーナーが設置された。
⑦市内事業者の受注機会 の確保	●市内の事業者の受注機会を拡大し、市内経済の活性化を図るため、「西宮市小規模修繕契約希望者登録制度」を設けており、庁内にその制度の周知を行い活用を促した。
⑧商店街・商業団体活動 の活性化	●企画会議への参加や広報に関する側面的支援を行うとともに補助事業に対して補助金を交付した。
	●空き店舗活用支援による商店街の活性化（交付件数3件）
⑨「企業市民」との協働	—
⑩ワーク・ライフ・バランスの 推進	●ひょうご仕事と生活センターと連携し、「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言」宣言企業の掘り起こしに努めた。

※「—」については、平成27年度の実施は無し

【指標値】

取組み 内容	指標（単位）	基準値	実績値 （H27）	目標値 （H31）
①	支援対象企業数	—	69件	50件
②	企業誘致数（市内移転含む） 【延べ】	3件 （H26）	3件	10件
	雇用者数【延べ】	94人 （H26）	94人	500人
③	産学官連携件数【延べ】	—	2件	10件
④	創業支援による起業者数	64件 （H26）	44件	120件
⑤	西宮ブランド取扱商品数	—	—	20件
⑥	川上～川中～川下企業間の マッチング件数	—	2件	20件

基本目標(2) 大学との連携強化

【施策内容の概要】

・本市には、9つの特色のある大学、短期大学が立地し、約3万6千人の大学生が通学している「大学のまち」です。今後も市内大学が活力を維持していくための環境づくりや、豊かな地域社会の構築をめざして「大学のまち西宮」を再認識し、それに相応しい都市の魅力づくりに取り組んでいきます。

【数値目標】

・事業数は順調に増えており、平成26年度に各大学と包括連携協定を結んだことなどにより、大学との連携を模索する動きは活発になっていると思われる。

指標（単位）	基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
1 市と市内大学との連携事業数	37 事業 (H26)	48 事業	100 事業

【目標達成に向けた取組み内容（平成27年度の状況）】

①大学と連携したまちづくり	●西宮市大学生受入研修（インターシップ）については、市内大学より12名を受入れ、研修事業を行なった。
②大学の知的資産と市の資産の相互活用	●大学が実施する事業（オープンキャンパスや大学主催講座など）の市民への情報提供については、大学へ情報提供を依頼し、随時HPなどで情報を発信している。
③大学と地域・企業との交流支援	●第15回大学交流祭を11月29日に開催した。また、西宮市大学交流協議会大学連携学生プロジェクトチーム企画・運営による学生間・学生と地域の交流イベント「JOIPA in 西宮中央商店街」を開催した。
	●学生ビジネスアイデアコンテストの1次審査通過者を対象に、市内企業経営者によるセミナーを開催した。
	●西宮市大学交流協議会の行なっているボランティア交流事業を支援した。
④市内企業と大学生との就職マッチング	●平成28年度の事業実施に向けて、「西宮市大学等就職支援情報交換会（準備会）」を開催した。

【指標値】

取組み 内容	指標（単位）	基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
①	機動的な都市計画制度等の運用箇所	1箇所 (H26)	1箇所	3箇所
②	大学交流センター研究関連利用件数（授業含む）	869件 (H26)	909件	1,200件
	インターカレッジ西宮大学共同講座受講者数	68人/年 (H26)	35人/年	200人/年
③	学生ボランティア派遣者数（西宮市大学交流協議会事業）	96人 (H26)	84人	150人
	大学・大学生・地域交流イベントの来場者数（大学交流祭）	5,000人/年 (H26)	6,000人/年	6,500人/年
④	マッチング事業による新規就職者数	20人 (H26)	—	100人

基本目標(3) 都市ブランドの発信強化

【施策内容の概要】

- ・本市は、「住みたいまち」として評価され、多様な性格を持った「生活そのものを楽しめる魅力的なまち」というイメージを有しています。この都市イメージを活かし、本市の都市ブランドをさらに高めていくとともに、本市の魅力をPRする情報発信の強化に取り組みます。

【数値目標】

- ・基準値は平成 27 年度の数字のため同数。
- ・西宮ブランドの情報発信や市内外への情報発信による効果が出るか順位を注視していく。

指標 (単位)	基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
1 地域ブランド調査 (魅力度ランキング)	113 位 (H27)	113 位	60 位

【目標達成に向けた取組み内容 (平成 27 年度の状況)】

①西宮の休日の過ごし方の提案	<ul style="list-style-type: none"> ●まちたび事業を再編し、大人が楽しめるプログラムをまとめた「まちたびにしのみや」、親子が楽しめるプログラムをまとめた「まちたびにしのみや for Family」として実施した。 ●西宮市観光キャラクター「みやたん」については、市内を中心にイベント等に出演した (248 回)。
②西宮ブランド (産品) の情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●観光案内所での販売などを通じて、西宮ブランドの発信に取り組んだ。 ●日本酒振興プロジェクトとして、蔵開や日本酒学校などを開催した。
③主要駅等での情報発信拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●にしのみや観光案内所、こうしえん観光案内所で、35,379 人の来所者があった。
④市内外への積極的な情報発信	—

※「—」については、平成 27 年度の実施は無し

【指標値】

取組み内容	指標 (単位)	基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
①	実施プログラムへの参加者数	—	2,506 人/年	10,000 人/年
③	観光案内所の利用者数	29,106 人/年 (H26)	35,379 人/年	50,000 人/年

基本目標(4) 芸術文化・スポーツに触れる機会の促進

【施策内容の概要】

- ・本市では、進取の気風のもと、市民が主体となって芸術・文化活動やスポーツ活動が活発に行われています。市内外の方々に積極的、効果的な情報発信を行い、本市で楽しみながら質の高い生活ができることを情報発信します。

【数値目標】

- ・芸術文化企画数は、設備改修等に伴う休館状況による変動はあるが、アミティホール以外のホールで、ミニコンサートやピアノ発表会等の小規模な催しが増えており、前年度に比し、増加した。
- ・スポーツクラブ 21 の会員数は、ここ数年少しずつ減少傾向にあるため会員数増加に向けて努力していく。

指標(単位)	基準値	実績値(H27)	目標値(H31)
1 市民主催の芸術文化企画数	551件 (H26)	584件	580件
2 スポーツクラブ 21 の会員数	13,729人 (H26)	13,372人	15,000人

【目標達成に向けた取組み内容 (H27 年度の状況)】

①市民の芸術文化への参加促進	●西宮ゆかりの題材をテーマにした「西宮文学案内」、市内各地で活動している合唱団体が一堂に会し、発表する市民コーラス大会など市民参画事業に取り組んだ。
	●市民会館会議室の一部について、減音化工事による音楽練習の利用拡大、内装の補修などを行った。
	●西宮市大谷記念美術館については、小中学校の児童生徒を対象にしたアウトリーチ事業で子供たちを美術館に迎え、作家による鑑賞会を4件実施した。
	●市民生活を支えている稼働施設や、過去に支えていた休止施設など、一般に公開されていない公共施設の魅力を、より多くの方々に知ってもらえるよう、施設を題材とした写真をフェイスブックページ「無名の彫刻：西宮」にて発信した。また、これら市内施設の写真撮影会を開催し、参加者のそれぞれの感性で撮影した写真を同フェイスブックにて掲載した。
②市民文化を担う人材の育成と活用	●アウトリーチ事業については、音楽9件、ダンス2件、美術4件の計15件を実施した。初年度であり、丁寧に進めることができた。
	●市民が提案する事業に市が連携する協働事業提案については、市民主体の文化振興を支援する目的のもと、13件の応募に対し、10件を採択した。

	<ul style="list-style-type: none"> ●文化を担う人材の育成（イベント企画講座等）については、10～12月に6回連続開催。17人の参加者が受講した。広報や企画、収支運営などについて学んだ。
③文教住宅都市を支える学術的事業の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ●ライフサイエンスセミナーでは、例年事業を実施した。 ●西宮湯川記念事業では例年事業の実施に加え、30周年記念事業として益川敏英氏を講師に「周年記念講演」を実施し、また「西宮湯川記念賞贈呈式」の様子を市民の方にもご覧いただいた。
④スポーツの楽しさを体感できるまち、トップスポーツゲームを観戦できるまちの実現	<ul style="list-style-type: none"> ●「アスレチック・リエゾン・西宮」のトップアスリートらが講師を務め、市民や指導者向けの競技別講習会や保護者講習会等を開催した。また、90周年事業として、多項目競技体験事業を実施した。 <p>「観る」スポーツを積極的に推進し、中央体育館において営利目的使用での興行試合等の開催を可能にするため、西宮市運動施設条例を改正した。 (H28年4月1日施行)</p>

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	実績値（H27）	目標値（H31）
①	市及び文化振興財団の事業参加者数	137,373人/年（H26）	132,831人/年	160,000人/年
	市民ホールで開催された文化事業の来場者数	202,086人/年（H26）	197,727人/年	245,000人/年
	大谷記念美術館の来館者数	55,977人/年（H26）	46,761人/年	60,000人/年
②	西宮市小中学校アウトリーチ事業の参加児童数	—	1,955人/年	5,400人/年
	協働事業提案（芸術文化振興部門）の採択件数	7件（H26）	10件	12件
④	スポーツ教室等の参加人数	153,031人/年（H26）	165,829人/年	170,000人/年
	運動施設の稼働率	57.0%（H26）	58.3%	60.0%

基本目標(5) 結婚・出産・子育て・子供の育ちへの支援

【施策内容の概要】

- ・子供たちを安心して生み育てていくことができるよう、子供たちの健やかな成長を地域全体で見守る「子育てにやさしいまち」を目指していきます。
- ・「子育てが楽しい」「西宮で子育てがしたい」「西宮で教育を受けさせたい」まちであり続けるための施策を推進していきます。

【数値目標】

- ・基準値に使用した市区町村別の合計特殊出生率は5年毎の公表となる

【参考】本市保健所で毎年算出している合計特殊出生率

(H22) 1.34、(H23) 1.33、(H24) 1.36、(H25) 1.37、(H26) 1.42

- ・子育てを楽しんでいる親の割合については、平成28年度にアンケート調査を実施予定

指標（単位）		基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
1	合計特殊出生率	1.32 (H22)	—	1.41
2	子育てを楽しんでいる親の割合	就学前	58.6% (H25)	65.0%
		小学生	60.2% (H25)	65.0%

「1」：基準値は、「平成20年～平成24年人口動態調査 保健所・市区町村別」（厚生労働省）を使用
 今回の「平成25～平成29年」の数値は平成31年公表予定

【目標達成に向けた取組み内容（平成27年度の状況）】

①「結婚したい」「子育てしたい」と思えるための取組み	<ul style="list-style-type: none"> ●「保育体験プログラム」を子育て総合センターにて実施。平成27年度は106人が体験。 ●学童期からの心身の発育や性に関する正しい知識の提供については、小学校4年生を対象に、思春期講座を夏休みに2回実施した。また、地域からの性に関する出前健康講座の要請もあり、地域で8回実施した。
②妊娠から出産に至るまでの支援	<ul style="list-style-type: none"> ●妊婦健康診査については、平成26年度まで助成回数14回・助成上限額72,290円であったが、平成27年度から助成上限額を82,000円に増額し、14回中2回を高額券（11,000円）2枚交付とすることで、血液検査など高額な健診内容にも対応できるようにした。

	<ul style="list-style-type: none"> ●特定不妊治療については、国の要綱に沿って、体外受精・顕微授精を受けられた夫婦に対し、医療保険が適用されない治療費の一部を助成(所得制限・助成回数制限あり)。 ●不妊治療に対する理解の普及については、市ホームページや市政ニュース等により制度の広報を実施。また、県実施の「不育・不妊専門相談」の広報も合わせて実施。
③子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者支援事業（妊産婦や0歳から就学前の子育て家庭のニーズに合わせた情報提供・相談援助）については、基本型・特定型の実施施設と保健福祉センターが連携しながら、個々の育児支援を実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・基本型：平成27年10月より2か所で開設 ・特定型：1箇所を実施 ●にしのみや子育てガイド（冊子）、子育て便利マップ（医療機関編。おでかけ編）を発行・配布。既存冊子類の周知ポスターチラシの作成・配布。 ●地域の子育て家庭が集える場として、地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）を実施している。子育てひろば事業の空白地域において公募を行い、2か所新設。また、国基準に満たない事業について、市単独補助事業で子育て支援ルームを1か所新設。 ●未婚のひとり親家庭に対する寡婦（夫）控除のみなし適用の実施について、平成28年度実施に向けて関係課と調整し、広報に努める。 ●市内の企業や店舗等において、授乳やおむつ交換等の設備を有し、乳幼児を抱える保護者が気軽に立ち寄ることができる施設を西宮市子育てバリアフリー施設「赤ちゃんの駅」として登録し、目印となるステッカーを建物入口等に貼付するとともに、市のホームページ上で公表している。移動式赤ちゃんの駅の貸し出しを開始。 ●児童発達支援センター「わかば園」とスクリーニングサポートセンターを移転再編し、平成27年9月に「こども未来センター」を開所したことにより、障害や学校生活への不適應などさまざまな課題のある子供を対象とした総合的な支援に向けた基盤整備を図った。 ●平成27年4月より阪神北広域こども急病センター（伊丹）との連携を開始し、深夜0時以降の小児科診療に対応できるように体制を整備した。（西宮市からの受診者数：592人） ●平成27年7月からは健康・医療・子育て等の相談に24時間年中無休で看護師等が応じる電話相談「健康医療相談ハローにしのみや」を開始した。（利用件数13,325件（延べ相談件数21,850件）） ●健康保険診療による医療費の自己負担額の全額または、一部負担金を控除した額を助成。また、平成27年度に市単独事業として就学前児童への一部拡大を実施。

<p>④保育サービスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●民間保育所（1園・定員20人）や小規模保育施設（3園・定員計44人）の新設整備や民間保育所の建替等（2園・定員50人増）により、保育受入れ枠の拡大を図ったが、それを上回る保育申込みがあったため、待機児童数が増加した。（76人→183人） ●発達障害やその他ケアが必要な児童が年々増えており、より細やかな支援を行うため、加配保育士の配置を3:1から2:1に拡充した。平成26年度と比較して、5名の保育士の配置が増加した。 ●病児・病後児保育については、施設型保育ルームを2ヶ所で実施。利用実績は、病児保育ルーム（定員6名）計739人、病後児保育ルーム（定員2名）計75人。8月31日をもって、病後児保育ルームが閉園し、市内1ヶ所での実施になった。 ●平成27年4月より、3歳未満児の保育料について、一部引き下げを行った。 ●保育士就職フェア（1回）を実施。56人が参加した。
<p>⑤子供の居場所の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●留守家庭児童育成センターについては、高木北育成センター新築工事、小学校余裕教室・地域会館での受入れを行い、待機児童の解消を図った。また、指定管理者の公募・4年生受入れのモデル実施を行った。 ●子供の居場所づくり事業は、3小学校でモデル実施を行い、事業効果や学校教育活動などへの影響について検証をした。（異学年の交流や外で遊ぶ機会が増えたなど事業効果を確認した） ●放課後子供教室事業は地区青少年愛護協議会39地区中36地区で実施。（実施回数は1,417回、参加延べ人数は子供50,880人、大人15,165人） ●文化的講座「宮水ジュニア」事業については、小学校4年生から中学生を対象に、各公民館において、合計46講座を実施した。（平成27年度の実施回数は335回、参加人数は6,666人）
<p>⑥良好な教育環境の提供と信頼される学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「自主・自律の学校応援事業」を24校園で実施。地域の参画と協働により、子供や地域の実態を踏まえ、インクルーシブ教育、小中一貫教育、学力向上をめざした取り組みを支援した。また、食育・環境教育等の推進による特色ある学校づくりを支援した。 ●ICTを活用した授業の実施と情報活用能力の育成については、平成21年度に導入された小学校PC教室および普通教室に設置の教育系パソコンの老朽化が進んでおり、OSの更新とともにPCの形をそれまでのノート型からタブレット型に変更して更新した。（教育用PC：4,800台を更新） ●外国人外国語指導助手の配置による国際教育については、小学校は半期、週1～2日配置、中学校は半期、常勤（小規模校は週3～4日）、高校は通年、常勤配置している。 ●安全でおいしい給食の提供については、全校自校調理方式での給食を実施。また、設備機器の更新、物資評価委員会の開催、食材の放射能検査を実施した。 ●学校給食のアレルギー対応強化については、平成27年度に学校給食献立作成・アレルゲン管理システムの開発を行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ●インクルーシブ教育の充実については、LD、ADHD、高機能自閉症等により学習、行動面で著しく不安定な児童生徒や在籍する学級への支援、校内支援体制充実のため特別支援教育支援員を配置している。 平成27年度は、全小中学校（60校）に各1名を週25時間（1日5時間×5日）配置。
	<ul style="list-style-type: none"> ●学校施設における空調設備の整備については、小学校10校で空調設備整備工事を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ●私立幼稚園の就園に対する支援については、所得制限を撤廃し、全ての所得階層・年齢で就園奨励助成金の支給が受けられるように制度を変更した。 (対象人数：7,057人、助成金額：853,738,675円)

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	実績値（H27）	目標値（H31）
①	対象イベントの開催数	—	—	6回
②	母子健康手帳交付時における保健師の面接率	36.7% (H26)	36.0%	95%
③	地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）の実施箇所数	15箇所 (H26)	17箇所	20箇所
④	保育所待機児童数	76人 (H27)	183人 (H28)	0人
⑤	留守家庭児童育成センター小学校4年生の受入れ施設数	2施設 (H27モデル実施)	2施設	15施設
⑥	全国学力・学習状況調査における偏差値が全国平均を上回った教科（知識/活用）の割合	100.0% (H26)	100.0%	100.0%
	小中学校の普通教室への空調設備の設置	63.3% (H26)	82.0%	100.0%

基本目標(6) 高齢者・障害のある人の暮らしへの支援

【施策内容の概要】

- ・今後も進展していく高齢社会に対応できる地域づくり・まちづくりを目指し、住まい、医療、介護 予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいきます。
- ・障害のある人もない人も、互いに人格と個性を尊重しあい支えあう共生のまちづくりに取り組んでいきます。

【数値目標】

- ・地域活動件数は順調に増えており、各地域包括支援センターの地域活動件数は年々増加している。
- ・居宅サービス受給率は、平成 27 年度の特別養護老人ホームの整備により下がったが、居宅サービス利用者数は、要介護認定者数の増に伴い、前年度比 5.5%増となった。

指標 (単位)	基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
1 地域活動件数(地域包括支援センター)	1,076 件 (H26)	1,206 件	1,365 件
2 要介護認定者の居宅サービス受給率	57.4% (H26)	57.0%	60.0%

【目標達成に向けた取組み内容 (平成 27 年度の状況)】

①生活支援・相談支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●サロンや昼食会など小地域福祉活動の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいいきいきサロン実施回数 (955 件) ・ふれあいいきいきサロン参加者数 (25,766 人) ・ボランティアセンター登録者数 (3,939 人)
	<ul style="list-style-type: none"> ●民生委員の役割を世間に正確に伝えるために、広報の強化に取り組んだ。西宮市民生委員・児童委員会の広報紙の発行や市民祭りでの「ふるさとブース」出展などを行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括支援センター (高齢者あんしん窓口) の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター 14 ヶ所 (職員総数 : 50 名) ・ランチ型地域包括支援センター 1 ヶ所 (職員 : 0.5 名)
	<ul style="list-style-type: none"> ●ふれあい支えあいセンターの状況 <ul style="list-style-type: none"> ふれあい支えあいセンターを 1 箇所開設 (延べ利用者数 16,839 人)
②介護サービス・住まいの充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 2 事業者へ地域のショートステイの整備補助を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 24 時間あんしんサービスについては、平成 27 年 10 月から鳴尾圏域で事業実施。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 西宮市内の医療介護連携圏域 5 箇所のうち、甲東・甲陽園、瓦木圏域の 2 箇所に在宅療養相談支援センターを設置した。

	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の住まいの整備については、枝川町の特別養護老人ホーム（定員 120 人）、甲子園九番町の特別養護老人ホーム（定員 75 人）の整備を完了した。
③高齢者の知識・経験・技術等の活用支援、生きがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> ●宮水学園受講者の地域貢献活動の促進及び支援として、地域づくりの実践活動を評価・推奨することを目的に「宮水学園いきいき活動賞」を設立し、16 団体を表彰した。
④高齢者の就業機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●キャリア・コンサルタントによる相談を通じて自らのキャリアを振り返り適職を探す支援をするほか、相談者の状況に応じた様々な助成や職業訓練の情報提供を行った。また、ハローワークと連携して各種セミナーを実施した。
	<ul style="list-style-type: none"> ●西宮市シルバー人材センターが実施する高年齢者就業機会確保事業に対して運営費の一部を補助した。
⑤障害のある人の生活支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●相談支援事業従事者を増やす取組みや質の向上については、西宮市障害者あんしん相談窓口連絡会(相談支援部会)において、セミナーを年 2 回開催するほか、毎月事例の勉強会を開催。
	<ul style="list-style-type: none"> ●地域自立支援協議会等を活用したネットワーク作りについては、運営委員会、くらし部会、地域生活移行部会、相談支援部会、しごと部会、こども部会、権利擁護委員会を毎月もしくは隔月で開催。また、総会、報告会をそれぞれ年 1 回開催。
	<ul style="list-style-type: none"> ●就労に関する相談支援については、西宮市障害者就労生活支援センター「アイビー」で実施（相談件数は 6,234 件）
	<ul style="list-style-type: none"> ●市内就労支援施設が、「一般就労に向けた支援プログラム」「一般就労促進プロジェクト」を立ち上げて、継続して利用者に提供することを目的とする計画を開始。平成 27 年度は計 7 回の会議及び企画を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉的就労支援の強化として、昨年度に引き続き、販路開拓や企業開拓などに重点的に取り組んだ結果、関係事業所の受注額は売上ベースで 1,977 万円を達成計上し、前年比 19%の増加となった。
⑥障害のある人の日中活動の場の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者グループホームの新設及び既存施設の改修（スプリンクラー設置など）を行う事業者に対して、工事費等の補助を行った。

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	実績値（H27）	目標値（H31）
①	生活支援コーディネーター	—	2 名	6 名
②	地域のショートステイ総定員数	14 人 (H26)	27 人	44 人
	特別養護老人ホームの総定員数	1,381 人 (H26)	1,660 人	1,711 人
	在宅療養相談支援センターの設置	—	2 箇所	5 箇所

③	生涯学習大学「宮水学園」講座 受講申込者数	2,963 人/年 (H26)	2,993 人/年	3,500 人
④	西宮市シルバー人材センター 会員数	2,189 人 (H26)	2,238 人	2,750 人
⑤	計画相談支援・障害児相談支 援の支給決定者数	394 人 (H26)	—	3,936 人
	障害者就労生活支援センター 登録者数	446 人 (H26)	498 人	650 人
⑥	市内指定生活介護事業所の 定員	481 人 (H26)	493 人	511 人

基本目標(7) 地域特性を踏まえた取組み

【施策内容の概要】

- ・交通利便性の高さ、田園風景が残る環境、賑わい・活気のある環境など、本市には、多様な魅力があり、地域それぞれの特性があります。地域により抱えている課題も異なっているため、地域における市民活動への支援や、良好な住環境の保全、地域の魅力発信などを通じ、人口の増加や人口減少の抑制を図ります

【数値目標】

- ・基準値は平成 27 年度の数字のため同数。
- ・地域ごとでの魅力創出や市内外への情報発信による効果が出るか順位を注視していく。

指標 (単位)	基準値	実績値 (H27)	目標値 (H31)
1 地域ブランド調査 (ぜひ住みたい・できれば住みたい)	6.7% (H27)	6.7%	12.0%

【目標達成に向けた取組み内容 (平成 27 年度の状況)】

①地域における市民活動への支援	●自治会活動の参考資料として作成している自治会ガイドブックの内容を見直し、市民の方の求めに応じて配布するなどの支援を行った。
	●自治会等の公益的な活動中に発生した事故等に対する補償については、4件の事故に対して各種補償金を支給した。
	●市内の各種団体が構成される「にしのみや市民祭り協議会」に対して、補助金の交付及び事務局を設置することにより支援を行った。 ・第 40 回にしのみや市民祭り 開催日：平成 27 年 10 月 24 日 (土) 来場者数：52,000 人
②良好な住環境の保全と地域の魅力発信	●地区計画や地域の土地利用等に関わる構想等の策定に取り組む 3 地区の団体にまちづくりの専門家を派遣した。
	●宮っ子のいえアドバイザー派遣については、5 団体に対して計 10 回の派遣を実施し、市民主体の活動の支援を行った。
③市内移動の利便性向上	●市民意識調査結果を反映させて平成 21 年度に策定した「都市計画道路整備プログラム」に基づき道路整備を行っており、平成 28 年 3 月末現在の都市計画道路の整備率は 83%となっている。
	●阪急バス山口営業所管内 (山口・塩瀬) のバス路線において大規模なダイヤ改正が行なわれ、北六甲台を経由する路線が拡充・増便された一方、利用実績の少ない路線では減便となった。

	<ul style="list-style-type: none"> ●バス事業者と連携してノンステップバスの導入やバス停留所に上屋・ベンチの設置について協議し、バス事業者に対して導入及び整備費の補助を行なった。 ●主要駅に隣接する駅の自転車駐車場 4 箇所を増設を実施した。
④人口減少・少子高齢化が先行する地区への対応	<p>【鳴尾地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鉄道高架事業については、平成 27 年 3 月に下り線高架切替完了後、上り線高架本体工事に着手。 ●駅周辺地区の整備にあわせた新たな土地利用の誘導・促進については、阪神電鉄、武庫川女子大学、西宮市による、課題検討や今後のスケジュールに関する情報共有の場を設けた。
	<p>【北部地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国道 176 号線の未整備区間については、重点要望区間であった名塩工区のバイパス区間が平成 27 年 7 月に開通。 ●コミュニティ交通については、本格運行に向けてバス停留所標識設置費の助成を行なったほか、運行協議会への専門家の派遣を実施した。 ●国見台への企業誘致は、これまでの企業立地活動により、平成 27 年度には名塩国見台の産業団地に 4 企業の進出が決まった。 ●自然を活用した交流機会については、旧船坂小学校跡施設において、地域資源を生かした催し等を実施することで、地域を訪れる人と地域住民との交流の機会を創出している。 ●山口町船坂地区等の地元主体によるまちづくりについては、専門家の派遣や活動助成等の支援を実施した。船坂地区では、まちづくり部会が組織され、地区の将来像やまちづくりの指針をまとめた「船坂まちづくり基本構想」が策定された。

【指標値】

取組み内容	指標（単位）	基準値	実績値（H27）	目標値（H31）
①	自治会加入率	77.3% (H26)	76.5%	80.0%
②	地区計画の策定件数	32 箇所 (H26)	33 箇所	35 箇所
	景観重点地区の指定	2 箇所 (H26)	3 箇所	5 箇所
	空き家地域活用件数	—	—	5 件
③	都市計画道路整備率	76% (H26)	83%	85%
	路線バス利用者数	49,822 人/日 (H26)	50,939 人/日	50,000 人/日
	踏切箇所数	42 箇所 (H26)	42 箇所	36 箇所
	自転車駐車場収容可能台数	29,730 台 (H26)	29,716 台	30,000 台

④	産・学・官によるまちづくりに関する連携協定	—	0件	1件
	船坂里山学校の利用者数	5,258人/年 (H26)	8,274人/年	8,000人/年
	コミュニティ交通の利用率者数 (生瀬地区)	44人/日 (H26 試験運行)	—	88人/日
	さくらやまなみのバス利用者数	403,603人/年 (H26)	426,778人/年	430,000人/年

(2) 平成 27 年度実施の地方創生先行型交付事業について

- ・地域住民生活等緊急支援交付金が国の平成 26 年度補正予算に計上され、地方版総合戦略の策定に先行して行う事業について、地方創生先行型として交付金が交付された。
- ・西宮市では 10 事業について交付金を活用、交付決定額は 123,710 千円（実績額 115,388,412 円）

【各事業の状況】 ※指標値の目標年月は平成 28 年 3 月末

1. 地方版総合戦略の策定

【事業概要】

文教住宅都市として良好な住環境等を形成してきた本市の特性を踏まえながら、次代を担う世代への支援など今後の人口減少への対応や必要な施策をとりまとめるため総合戦略を策定する。

（計画額 8,523,000 円、実績額 8,522,654 円）

【重要業績評価指標など】

- ・指標値の設定は無し（予定どおり事業終了）
- ・平成 28 年 3 月に予定通りに総合戦略を策定。

2. 阪神甲子園駅周辺観光案内所運営業務

【事業概要】

自然、歴史、文化、日本酒、食といった西宮市の多彩な魅力を発信するため、全国からの集約が見込まれる阪神甲子園駅前に観光情報の発信および地場製品の販売拠点（観光案内所）を設置する。

（計画額 5,591,000 円、実績額 5,591,000 円）

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
月平均来所者数	1,000 人	490 人	地方創生に 効果があった	事業の継続
地場製品の売上額	250 千円	324 千円		

来所者数については目標値を下回ったが、売上額は目標値を上回るなど、地方創生に一定の効果があったと認められる。

3. 24 時間電話医療相談

【事業概要】

少子化対策の一環として、小児救急医療体制の充実を図るため、24 時間電話医療相談を実施する。

（計画額 22,610,000 円、実績額 20,199,713 円）

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
相談件数	30,000 件	21,850 件	地方創生に 効果があった	事業の継続
0-14 歳人口減少率	-0.51%	-1.05%		

徐々に市民に定着しており、当該事業を継続することで市民の不安解消や健康保持につながるものとする。

4. 阪神北広域こども急病センターへの参画

【事業概要】

少子化対策の一環として、小児救急医療体制の充実を図るため、深夜0時以降の小児科診療を行なう阪神北広域こども急病センターへの参画を行う。

(計画額 19,461,000 円、実績額 19,460,151 円)

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
深夜帯における西宮市からの受診者増加分	300 人	278 人	地方創生に効果があった	事業の継続

徐々に市民に定着しており、当該事業を継続することで市民の不安解消や健康保持につながるものと考えている。

5. 子供・子育て支援総合推進事業

【事業概要】

- ① 子育て支援に関する総合的・一元的な案内・相談体制の確立や組織横断的な業務間の情報共有を行い、ニーズに応じた情報提供の充実を図る。
- ② 乳幼児を抱える保護者の子育てを支援する取組みの一環として、野外イベント等でおむつ替えや授乳を行えるよう「移動式赤ちゃんの駅用テント」や「おむつ交換台」を貸し出す。

(計画額 4,767,000 円、実績額 4,766,040 円)

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
個別業務システムからの居所不明等児童にかかる情報提供件数	200 件/月	0 件/月	地方創生に効果があった	事業の継続
移動式赤ちゃんの駅用テント 貸出回数	5 回	1 回		

①は、平成 28 年 3 月にシステム構築が完了し、今後運用を開始し情報提供を行っていく。なお、平成 28 年度より運用を開始しており、11 月実績では 438 件のアクセスがあった。

②は、屋外イベントなど実施の際には授乳室やおむつ替え室として必要とされるため継続する。

6. 子育て支援ルーム補助金

【事業概要】

子育ての孤立感や不安感を軽減し、地域コミュニティを活性化するための子育て支援ルーム事業を実施する団体に対する補助金で、地域子育て支援拠点事業「子育てひろば事業」の空白地域を補完する事業である。

(計画額 2,440,000 円、実績額 624,000 円)

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
子育て支援ルーム開設箇所数	4 箇所	1 箇所	地方創生に効果があった	事業の継続
利用者数	1,200 人 (延べ)	360 人 (延べ)		

地域子育て支援拠点事業の補助基準に満たない子育て支援者への事業補助となることで地域の子育て支援へとつながっている。

7. にしのみや子育てガイド（冊子）、子育て便利マップ

【事業概要】

妊娠期から子供の健康、子育てに関する支援制度や相談窓口、保育所・幼稚園、子育て関連施設や遊び場など、子育てに役立つ情報を冊子にまとめて配布し、妊娠・出産・子育てと切れ目のない支援を行うツールとする。

（計画額 3,030,000 円、実績額 2,909,844 円）

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
子育てガイド配布冊数	12,000 冊	13,000 冊	地方創生に効果があった	事業の継続
アンケート「子育てガイドを活用した」人の割合	80%	87.5%		

引き続き、利用者のニーズを把握しながら、効果的な情報発信を行っていく。

8. 障害児加配保育士の配置基準見直し（公立保育所）

9. 障害児加配保育士の配置基準見直し（民間保育所）

【事業概要】

心身に障害を有する児童を保育所へ入所させ、他の児童との集団による保育を行うことにより、当該児童の成長発達を促進し、相互理解を深め、子育て支援の充実を図る。

（8：計画額 18,706,000 円、実績額 17,958,010）

（9：計画額 11,150,000 円、実績額 7,920,000 円）

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
（公立）制度拡充による障害児加配職員数の見込み（35 人→41 人）	41 人	40 人	地方創生に効果があった	事業の継続
（民間）制度拡充による障害児加配職員数の見込み（31 人→42 人）	42 人	35 人		

個別の支援の必要な子供について、より手厚く保育をする体制となり、今後も保育の質の向上を図っていく。

10. 学校給食における食物アレルギー対策事業

【事業概要】

学校給食における食物アレルギー対策事業

児童生徒、その保護者が給食のアレルギー情報を簡易に WEB で確認できるようにする。

（計画額 27,432,000 円、実績額 27,432,000 円）

【重要業績評価指標など】

指標	指標値	実績値	事業効果	今後の方針
学校給食献立作成・アレルギー管理システムの構築により、安全性が増すアレルギー疾患を持つ児童生徒数	1,000 人	0 人	地方創生に効果があった	事業の継続

現在、システムの運用に必要なデータを整備しており、データが整い次第、数校で試験運用を実施する。

その後、試験運用での問題点を解決し、平成 28 年度中に段階的運用を開始する。平成 28 年 11 月時点で、8 校（対象児童生徒数：118 人）で現行の運用と並行して試験運用を実施している。

4. 地域創生総合戦略検証に係る有識者会議

・本戦略に係る施策の検証及び推進にあたって、外部有識者からなる標記会議を設置しました。

【委員名簿】

役職	氏名	所属等
委員	蟻田 剛毅	株式会社シュゼット 代表取締役社長
委員	尾上 典央	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部副部長
委員	角野 幸博	関西学院大学総合政策学部 教授
委員	清水 智子	有限会社キャップス 代表取締役
委員	辰馬 章夫	西宮商工会議所 会頭
委員	松田 直人	兵庫県阪神南県民センター長

(五十音順、敬称略)

【開催概要と主な意見】

日 時	平成 28 年 11 月 11 日 (金) 午前 10 時～12 時
場 所	西宮市役所本庁舎 541 会議室
出席委員	蟻田委員、尾上委員、角野委員、清水委員、松田委員
事務局	今村市長、松永副市長、掛田副市長、田原政策局長、須山政策総括室長、四條政策推進課長ほか
会議の公開	公開
審議等議題	西宮版総合戦略の平成 27 年度進捗状況等について ・平成 27 年度の進捗状況の中でも国の交付金を活用した地方創生先行型交付事業について意見を頂いた。また、現在取組みを進めている産官学の連携を中心に今後の取組みに関する意見を頂いた。

(主な意見)

■ 地方創生先行型交付事業（国交付金事業）について

【甲子園観光案内所】

- ・来場者数が少ない。物販ではなくビジターセンターとしての役割を重視するのであれば甲子園駅よりも歩き回れるところがいっぱいあるところがよいのでは。
- ・甲子園駅を出てすぐのところにあるが、外国の人がみてもツアーリストインフォメーションと分かるようなしつらえや外観があればよい。
- ・西宮はデザイン力もあり、市民の感性も非常に高いところなので、商品の展示もワクワクするような形を考えると出入りもニーズも増えるのではないか。
- ・駅前周辺整備をしているがバスの案内等も一緒にできるとよい。
- ・外国では駅からクマの足跡が続いてインフォメーションまで誘導するような仕掛けがある。駅からインフォメーションまで導くような工夫があるとよい。

- ・商品を出していても、他社と一緒にだとあまり派手にしてはどうかと遠慮がでる。
期間限定で1社に貸し出すなど、このような施設で遠慮が無くなる仕組みづくりは研究課題ではないか。
- ・阪神のスペースを借りている枠の中で何が出来るかはある。
- ・今はこの場所だけだが、今後、西宮のインフォメーションをどういう場所でどういう方向で展開していくか総合的な議論がいる。

【子供・子育て支援総合推進事業】

- ・27年度はシステム開発までとなっている。28年度からは利用実績があるとのことなので合わせて報告したほうがいい。
- ・赤ちゃんテントの実績が1回の理由と今後の課題は。
(市：既製品だが大きくて設置に手間がかかるため利用が少なかったと考えている。今後は活用の研究と周知をしていく。)

【にしのみや子育てガイド、子育て便利マップ】

- ・QRコードをありとあらゆるところにつけると色々な情報へ導くことができるのではないか（赤ちゃんの駅にもQRコードをつけたらよい）

【学校給食における食物アレルギー対策事業】

- ・27年度はシステム開発までだが28年度中の運用実績も合わせて伝えてもらうほうがいい。

【交付金事業など事業全般】

- ・こういう形で実際に数字を投げられているのでそうなんだろうと理解するが、その結果をフォローしていくためにどうするか、次に進めるためにどんな発見があったか、継続するためにこうしていこうとか考えて欲しい。
- ・検証ではどのような指標を設定するかが大事。これからの課題として具体的な検証ができる目標値を考えてもらいたい。
- ・実施だけに予算を組むのではなく、終わった後に発信するための費用も必要。
- ・利用者へのアンケートなど声を聞く仕組みがあるとよい。
- ・官民連携の際は、成功をどこにおくのか、コンセプトをどうするか等をあらかじめ決めておくことが必要。プレイヤーに何を期待するのかあらかじめ文書化しておくとうい。責任分担も分かり活動しやすい。

■産官学連携の取組みについて

【企業や大学、地域のつなげ方など】

- ・中小企業としては大学と連携できるのは非常にありがたい。どのような研究をしているかなど大学のリストがあればいいと思う。
- ・大学側も連携については問題意識をもっているが、個別の付き合いで連携が生まれているのが実態。
- ・学内のシーズと地域のニーズがマッチしてない状況もある（研究内容ではなく、単に人手が欲しいということがある）。
- ・継続性の問題で学生は卒業していく。何年にも渡って企業、地域と関わるには相互に限界と可能性を理解しておく必要がある。

- ・産官学連携となっているが本当は金（金融）が入れるようにしたい。もっと横串をさせるように出来ればよい。
- ・学生に人手を求めているという話は、実際にそのレベルの部分が多いのではないか。
- ・大学と企業の連携は、企業にある程度リードして頂ければと思う。行政が担う部分は地域との連携ではないか。
- ・企業と地域の連携は結構重なっている部分があるので、もう少しうまくつなげられるプロジェクトがあると面白いし、西宮らしいと思う。

【大学生など若い人に対する取組み】

- ・県内大学の卒業者が県内企業へ就職するのは限界がある。就職はしないけれど住みに戻ってくる子を増やしていくことになるのではないか。そのためには西宮を好きになって卒業するという部分がある。
- ・サードプレイスとなる小さなハブのようなものがあるといい。お試し活動のような第一歩を踏み出せる場所づくりがあれば。
- ・大学の連携には教育的な面、研究事業的な面がある。文系の大学が多いので研究的な面は難しいかもしれないが教育的価値があることは非常に実感する。
- ・学生の取組みを市としてアピールされると、親御さんや親戚の方が見るなどもっと広がっていくのではないか。

【大学に関する情報の提供】

- ・ファシリティとして大学にどんな先生がいますというリストがあるとよい。辞書をつくる活動だと思うがイベントが無いと使わないのでイベントをつくることも必要。
- ・大学のホールなど使える設備の情報もあるとよい。
- ・大学の法人は一生懸命、講堂やホールを貸したりしているが、どういうルートでされているか分からないところがある。

【大学が行う社会人教育など】

- ・大学のリカレント教育として社会人が勉強して力をつけて、よりクリエイティブな仕事ができる仕組みづくりがあるといい。
- ・どのようなリカレントニーズがあるか大学も分からないので、市が中心になってリカレント講座を企画頂くとよいのではないか。
- ・大学では社会人大学やカルチャーセンターの高度版をやっているが、もう少し敷居の低いものがあったもいいと思う。

【高校と大学の連携】

- ・大学が気にしているのは高大連携。西宮の高校と大学をマッチングしていくこともありではないか。

■各取組みに対する意見など

【西宮の地域特性を活かした意見の聞き方】

- ・若いママさん達が集まっているという西宮の地域特性を活かして、そういう方が集まる場所をつくって意見を聞くといいのではないか（西宮ガーデンズに仮設テントを立てるとか）

【保育所の防音対策の検討】

- ・保育所を建てる時に地域の方から反対を受けることがあると思うが、保育所の壁に吸音材を貼ると声が響かなくなり、子供の声も小さくなったという事例がある。

そのような対策もしている先端の保育所ですよということもアピールできるので一度検討してみてはどうか。

【西宮の多様性を踏まえた都市ブランドの発信】

- ・西宮のブランドは南部のごく限られた地域のイメージがある。それは悪いことではないが、まちとしての多様性をアピールできていない気がする。
- ・必ずしも西宮の市域にこだわらず、神戸市北区や三田も含めた六甲山の北側ブランドというものを意識したら、西宮は両方を持っているといういい方もできるのではないか。

【北部地域の活性化】

- ・非常に高くオリエーターを持った消費者がいる都市で、北部のような農業のエリアがあることは非常にメリット。
- ・オーガニックとかライフスタイルにアピールできる都市型近郊農業の取組みが進めばいい。
- ・消費者と生産者が直接接することができるマルシェがいろんな所にできるとよい。
- ・農業は観光や余暇活動の意味でもクリエイティブな力がある。健康年齢を伸ばすことにもつながるのではないか。
- ・銀行でも近郊農業は着目しているが、地元の既得権との問題が結構あり、思ったようにうまくいかないと聞く。
- ・北部でセンスのよいお店を開いてくれる人を誘致することも非常にいいと思う。そこに行ってでも買いたいというお店が1軒でもあると、それを発信することで同じような感性の高い人たちが集ってくる。
- ・北部の開発のターゲットは岡山とか北の方ではないか。北関東や東北の地方都市と同じく、西宮の北部も南部に負けない経済都市になるんだという視点もある。
- ・名塩の工業団地が売れたのも交通ネットワークがあるから、広域を想定したまちのあり方も北部にはある。